

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290700069		
法人名	医療法人財団 聡誠会		
事業所名	グループホーム ふくろう		
所在地	千葉県銚子市長塚町3-251		
自己評価作成日	平成22年3月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://hokoku.chibakenshakyo.com/kaigorep/list.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブナルク千葉福祉調査センター
所在地	千葉県茂原市茂原480
訪問調査日	平成22年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所を医療法人が運営していることで、医療との連携が迅速に図れること。常時医療関係者と連絡が取れることです。しかし、入居前の主治医とのつながりも尊重し、入居後の医療に不安を抱くような心配はありません。

人生の先輩として尊重し、家族のように寄り添い、職員もみな生き生き動いており、笑い声がたえない明るく楽しいホームです。

自分が持てる力を活かし、お互いを補い合えるといった共同生活の利点に力を入れて、今後も利用者様主体の介護を提供していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・銚子市郊外で住宅地からも離れた閑静な所に立地し、庭の一角に菜園があり、利用者は、四季折々、野菜作りを楽しんでいる。
- ・事業所が開設して1年しか経っていないが、代表、管理者のリーダーシップの下で利用者本位に徹した運営が実践されている。
- ・利用者は優しく心のこもったサービスに満足し、のびのびと穏やかに暮らしている。
- ・代表は医師(院長)で忙しい身でありながら、週1回訪問し、利用者一人ひとりに親しく言葉を掛ける姿勢は特筆すべきことである。
- ・地域の様々なボランティア団体(NPO法人等)の有効活用を多面的に検討されることが望まれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念または基本方針は、利用者が理解しやすい表現となっている。職員は利用者が穏やかに過ごせるように努力している。	運営理念と基本方針が平易なことばで明文化され、モットーの“のびのびと暮らし穏やかに生活して頂きますよう支援します”を事業所内に掲げ、全職員が介護業務に励んでいる。また、介護に当たっての共通認識として、規則より労わりの心を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方を招き、日本舞踊を行って頂いたり、中学生の職業体験の受け入れ、町内会の敬老会に参加したりして地域の方とふれあう機会を設けている。	住み慣れた地域の人との交流を大切にし、地域の行事への参加、ボランティアの受け入れ、学校との連携等に積極的な取組みをしている。	庭の手入れ(草取り等)や菜園での野菜作り等に、ボランティアの支援を検討されることが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の介護教室で「認知症ケアのポイント」と題して寸劇で発表したりして、地域の人々に呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおよそ2ヶ月ごとに行っている。評価に対する意義は職員全体で理解しており、今後の改善課題に取り組む姿勢が見られる。	地域の理解と協力・支援を得るため、構成メンバーとして、町内会長、町内民生委員、町内保健推進委員、地域包括支援センター職員、市役所高齢者福祉課職員、有識者に参加して貰っている。また、検討事項については、その後の経過を報告するようにしている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に運営推進会議へ参加をしていただいている。また、何かあれば、こちらから出向くようにしている。	市の担当者、特に、地域包括支援センター職員と密接な連携を図り、事業運営のアドバイスや介護業界の動向などの情報入手に役立っている。また、入居希望者を斡旋して貰うこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠などせず、拘束をしないケアに努めている。身体拘束廃止研修に参加し、職員全体で勉強会をひらき理解を深めている。	当事業所には何としても身体拘束をしないとの強い意志(信念)があり、「身体拘束ゼロへの手引き」をもとに勉強会を実施すると共に、徘徊の危惧が察せられる利用者については、入所初期の行動を注意深く見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者権利擁護の研修に参加し、高齢者虐待防止法を意識し、理解を図り、早期発見を心掛けています。全職員にも高齢者虐待防止法を提示し周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は「権利擁護事業」「成年後見人制度」の研修に参加したことがあり、概要は理解している。職員は認知症介護実践者研修で、日常生活自立支援事業や成年後見人制度を学び理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約をする際は、十分な説明をおこない、ご家族の疑問や不安が解消されるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と面談時に意見や要望を聞き、出された意見は職員で話し合う。 また、「ふくろう通信」というホーム内新聞を作成し、利用者の家族にも呼びかけている。	利用者、家族の意見・要望は、個人面談の他、運営推進会議、利用者・職員合同会議、利用者自治会等でも意見を聞いており、意見は運営に十分反映されている。 また、ホーム内新聞“ふくろう通信”は利用者の家族とのコミュニケーションに役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は職員が気軽にあらゆる意見、要望を言える雰囲気を作り、聞くように心掛けている。また、ミーティングや個人面談で、運営に関する意見を聞き生かせるようにしている。	当事業所には気軽にモノが言える職場風土がある。職員の意見はカンファレンスで反映される他、代表(理事長)は週1回のペースで来訪し、職員の意見・要望を聞くように心掛けており、意見は運営に十分反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生活動を積極的に行い、働きやすい職場環境に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	活力ある施設を維持するため、全職員を対象に認知症介護実践者研修及びリーダー研修、その他外部研修に参加できる体制を取っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県地域密着小規模ケア推進協議会に加入し、勉強会に参加して、サービスの質向上に職員間で話し合いをもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何度か本人と会う機会を作り、本人が抱えている不安なこと、困っていること、希望している生活などを時間を掛けて聞くようにしている。 入居時、センター方式を活用し、要望等を含め話を聞き、個々に応じた対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・看護師が窓口となり、何でも話せる雰囲気を作り、話したいことを時間を掛けてききます。家族が困っていること、望んでいることを整理し受け止めることで、家族の心の負担を軽減できることに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族との話し合いの中で、グループホーム以外に必要なサービスがあれば、そのサービスの内容と利用までの流れを丁寧に納得できるまで説明します。本人・家族の道が開けるように支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活することを意識し、利用者の心情を常に察するように努め、その上で本人の思いを共感し、理解し、声を掛けるようにしている。 また、人生の先輩として、職員が利用者に人生相談をしたり、調理の技などを教えてもらいながら共に支えあいながら過ごせるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の思いを家族・職員が聞き、或いは心情を察し、家族と職員の間でその情報を共有し、その利用者の思いが実現できるように家族と職員で考え、必要があれば家族に協力を得て共に支援できるように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも訪問しやすい場作りと、外出・外泊は家族に相談し、機会を作っていただくよう努めている。	馴染みの知人や友人との交流を大切にし、可能な限り継続できるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を全職員で把握している。その上で利用者同士の関係がうまくいくように職員が間に入り、円滑にいくように努めている。また、一人ひとりの利用者の性格を把握し、利用者間で助け合いながら過ごせるように声を掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には見舞いに行くよう努めている。契約が終了しても、本人・家族にとって知りたい情報がある時や悩み事がある時は、いつでも相談に乗り、提供できる情報などを伝えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどのように生活したいか、何をしたいのかを把握するために、時間をかけて話をしたり、困難な場合は本人の言葉や表情、しぐさなどから多角的に読み取り、職員同士で意見を延べあい、家族にも伝え、意見を聞き検討している。	その人らしい暮らしの支援を実現するため、本人の意向把握を重視し、様々な努力が払われている。例えば、「気付きシート」に成功事例、失敗事例を記載し、職員が認識を共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活歴や生活習慣、生活環境、趣味、これまでのサービス利用の経過などを聞き、本人からも日常の会話の中でそれらを聞き取れるように努め、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族から一日の過ごし方(生活リズム)や、今までできたこと、やっていたことを聞いている。また、職員が共に生活をする中で、できること、できないこと、わかること、わからないことなど細かく分類し、把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの情報収集と意見、或いは生活を共にした中で、職員が少しずつ聞いたり察した本人が希望する生活のあり方や課題をカンファレンス、意見交換、モニタリングを通じて職員全員で話し合い、介護計画を作成している。その後家族に提示し、意見をもらっている。	利用者本位の介護サービスを実現するため、本人や家族の意向や意見をふまえ、カンファレンスで協議して介護計画を作成している。その後、本人の生活状況をモニタリングし、必要に応じて計画の見直しをしている。	家族アンケートで介護計画の説明に不満が見られるので、分かり易い説明の工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個別のファイルを作成し、食事量、飲水量、排泄情報、バイタルや職員が共に生活した中で、気づいたことや本人の言葉、行動、表情、生活の様子、状態の変化などを、介護記録に記録し、職員間で共有している。介護計画の見直しの際は、情報の一つとして活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じた対応に努めている。 通院の支援を職員が行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のサークル活動の方に定期的に訪問してもらい、踊りや音楽を披露して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診している。職員の同行もあり、必要に応じてバイタルチェック表など提示している。	本人及び家族の希望を大切にし、入居前のかかりつけ医への受診を認め、必要に応じて職員が通院介助をしている。診療結果は随時家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に相談したり、かかりつけ医に相談したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会を行い、情報交換に努めている。また、家族に連絡し情報を得る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、日常の健康管理や急変時の対応、入院先との連携について家族に説明し、家族の意向にそうよう努めている。	重度化して入院治療を希望するか否かは家族の判断を尊重し、急変時の対応、ターミナルケアについても、家族の意向を尊重している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急措置の勉強会を開き、AEDの使用方法や心肺蘇生法の手順などを定期的に学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法等話し合いマニュアル化して訓練も行っているが、地域の協力は期待できない。	近所に住宅がなく、緊急時に地域の協力は期待できないので、セコムと契約し、消防署への緊急通報装置を設置している。避難訓練は年2回実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを傷つけないように、職員が利用者に対して常に「尊厳」を持って言葉かけや話し方、接し方、対応をするように心掛けています。また、個人情報保護法を抜粋し職員に提示している。	プライバシー保護の研修実施記録があり、マニュアルもある。利用者の尊厳を守ることをモットーに、全職員が日々の介護に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できる場面を作るようにしています。利用者の能力により複数の中から選択してもらったり、二択にし自己決定を容易にする工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や昼寝、買い物など、その日、その時にしたいことなど、一人ひとりの思いを尊重し支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりのオシャレ(化粧など)、身だしなみ(好きな服)などの生活習慣の情報を本人・家族から聞き取り、判断能力が低下しても継続して楽しむことができるよう支援している。理容・美容も本人が望む店へ行けるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずは3食栄養のバランスを考慮し、配食サービス(食材)を頼んでいるが、朝食はご飯・パンを選択できるようにしている。食事の準備・片付けは、一人ひとりの「できる能力」を把握し、職員と共に行っている。食事は信頼関係の構築という意味も踏まえ、利用者と職員と一緒に食べている。	利用者の好みを配慮し、時折、特別メニューを提供している。利用者の能力に応じて食事の準備・片付けをやって貰っている(利用者の発案による役割分担)。利用者と職員と一緒に会食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者のその方に応じた量・大きさ・食べるペースなどを把握し、声かけを行う。水分も声かけや介助にてなるべく必要量をとっていただく。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日全員は行っていない。自分でやっている方、介助にて行っている方もある。(毎食後)夕食後は全員声かけにて行って頂き、義歯は預かり消毒する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表をつけることにより、排泄のパターンを把握し、トイレ誘導をされげなく促している。	オムツのない生活は、生きる意欲や自信の回復につながるので、排泄パターンの把握、トイレ誘導などで排泄自立に向けた努力をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、オリゴ糖、野菜ジュース、乳酸菌飲料の摂取に努め、排便チェック表の記入をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は2日に1回、時間帯は午後と大まかに決まっている。利用者のその日の意向を聞き、声かけしている。入浴を拒む人に対しては、声かけ、対応の工夫などによって入浴の支援をしている。	入浴を嫌がる利用者もあり、羞恥心、恐怖心などを配慮しながら、2日に1回入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員が利用者の体調、表情、しぐさ、行動などを見ながら、状況に応じて休息を取るよう促している。安眠につながる為に、長年の生活パターンを本人・家族から聞き把握し、その人なりの生活リズムが維持できるように努めている。不眠の方は、医師と相談し、助言を受けたりね場合により睡眠剤を服用していただき、安眠へとつなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認は必ず職員が行う。個々のケース記録に処方内容をファイルしてあり、すぐに目を通せるようにしてある。全ての薬は薬局で分包を依頼しており、名前・飲む時間などを袋に記載してもらい、飲み間違えないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々にあった役割を作っている。(掃除・トイレ洗いや黒板のメニュー書き等)体調を見ながらドライブ・散歩等も行い、本人の喜びにつながるよう力を発揮してもらえるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に買い物・散歩・ドライブには行っている。 一人ひとりの外出の希望を聞き、希望に沿って外出できるよう支援している。	外出は気分転換、ストレス発散、五感刺激に効用があるので、買い物、散歩、ドライブなど利用者の要望に応じている。	家族アンケートで外出が少ないことに不満が見られるので、外出代わりに事業所側の通学路を通る小学生の元気な姿を眺められる工夫が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する人は、職員同行にて買い物へ行き、できる方は職員見守りにて支払いもしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をかけたいとの希望がある時は、自ら電話をしてもらっている。手紙も本人の希望があれば職員と共に手紙を作成し出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った花や装飾を行っている。また、利用者と共に季節の飾りつけをして、季節を感じてもらえるようにしている。また、音量に注意をはらいながら利用者の好きな音楽を流し、リラックスできる空間を演出している。	共用の空間(玄関、廊下、居間(兼食堂)、台所、浴室、トイレ)は、季節感がでる装飾を工夫するなど、利用者が居心地よく過ごせるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は利用者が決めているが、ソファーなどを配し、自由に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時ご家族にお願いし、長年使い慣れた家具や好きな写真、使い慣れたラジオなどを持ち込んで頂き、安心できるよう努めている。	居室の利用については、利用者の意向を取り入れ、使い慣れた家具、ラジオ、テレビなどの外、要望があれば仏壇、位牌などの持ち込みも認めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やテーブルや椅子の使い易さは適切か、利用者の状態にあっているかを職員間で話し合うことにしている。 状況により見守りや声かけをしながら、自立が継続できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容